

ごみ排出量について

1 ごみ総排出量の推移

令和3年4月から9月(6か月間)のごみ総排出量^{※12}は32,675 tで、前年度同期間と比較すると、387 t(1.2%)減少しました。

(単位:t)

項目/年度	令和2年4月～9月	【速報値】		
		令和3年4月～9月	増減分(t)	対前年度比(%)
※1 人口(各年10月1日現在)(人)	230,738	229,138	▲ 1,600	▲ 0.7
※2 世帯数(各年10月1日現在)(世帯)	110,855	111,291	436	0.4
※3 可燃ごみ	16,869	16,826	▲ 42	▲ 0.3
※4 不燃ごみ	2,555	2,120	▲ 435	▲ 17.0
※5 臨時ごみ	334	306	▲ 28	▲ 8.4
※6 家庭系可燃・不燃ごみ(A)	19,758	19,253	▲ 505	▲ 2.6
※7 事業系可燃ごみ(B)	7,822	7,914	93	1.2
※8 可燃・不燃ごみ量計(C)=(A)+(B)	27,580	27,167	▲ 413	▲ 1.5
※9 家庭系資源ごみ	5,398	5,424	26	0.5
※10 事業系資源ごみ	84	84	▲ 0	▲ 0.5
※11 資源ごみ量計(D)	5,482	5,508	25	0.5
※12 ごみ排出量(C)+(D)	33,062	32,675	▲ 387	▲ 1.2
※13 焼却処理量	27,477	27,619	142	0.5

※四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

2 家庭系ごみ・事業系ごみ別の排出量の状況

(1) 家庭系ごみ

可燃・不燃ごみ^{※6}は19,253 tで、前年度同期間と比較し、505 t(2.6%)減少しています。内訳として、可燃ごみが42 t(0.3%)、不燃ごみが435 t(17.0%)、臨時ごみが28 t(8.4%)減少しました。

また、資源ごみ^{※9}は5,424 tで、前年度同期間と比較し、26 t(0.5%)増加しています。内、ペットボトル・廃プラが52トン(主に5月、8月、9月の緊急事態宣言月で増加)し、これが資源ごみ全体を増加させている理由と考えています。

(2) 事業系ごみ

可燃ごみ^{※7}は7,914 tで、前年度同期間と比較し、93 t(1.2%)増加しています。

一方、資源ごみ^{※10}は84 tで、前年度同期間と比較し同量となっています。

(3) 焼却処理量

焼却処理量^{※13}は27,619 tで、前年度同期間と比較し、142 t (0.5%)増加しています。これは前年度よりも焼却炉の稼働日数が16日多いことが理由と考えています。